

# よっかいち港学<sup>🎓</sup>

## 港を知ろう!

財務省発表の2011(平成23)年積卸港(空港を除く)別貿易額によると、四日市港は全国9位であり、全国有数の港といえます。

四日市港のことをみなさんはどのくらい知っていますか?

今回は、全国有数の国際貿易港としての四日市港と、人々の憩いの場としての港を紹介します。



霞ヶ浦地区のガントリークレーンとコンテナ船

## 伊勢湾を代表する港として開港

1899(明治32)年8月、四日市港は同じ伊勢湾の名古屋港より8年も早く外国との貿易ができる開港場に指定され、伊勢湾を代表する国際貿易港としての第一歩を踏み出しました。

その後、背後地域で紡績産業が盛んとなったことから、綿花や羊毛の輸入港として栄え、1952(昭和27)年には、外国貿易上特に重要な港として、特定重要港湾の一つに指定されました。その後、港湾法の改正により2011(平成23)年に国際拠点港湾となりました。

## 「国際産業ハブ港」の実現に向けて

四日市港は、石油化学コンビナートが形成されてからは、原油、液化天然ガス、石炭などを多く輸入するエネルギー港湾へと成長するとともに、コンテナや、バルク貨物、そして自動車などを扱う総合港湾としても発展し、背後圏産業を物流面から支える中部圏の代表的な国際貿易港の一つとなっています。

日本港湾の相対的な地位が低下する中で、2004(平成16)年には、より国際競争力を高めるために、四日市港は名古屋港とともに伊勢湾として「スーパー中核港湾」(伊勢湾・京浜港・阪神港)に指定されました。

その後、2010(平成22)年の「国際コンテナ戦略港湾」の選定では、伊勢湾(四日市港および名古屋港)は京浜港・阪神港の次点となりましたが、中部地区における国際海上コンテナの取り扱いは主に伊勢湾のコンテナターミナル群が連携して担うこととされており、新たに導入された港湾運営会社制度でも京浜港や阪神港と同等の制度が適用されています。

伊勢湾(四日市港および名古屋港)は、臨海部石油化学コンビナートの素材産業において、従来の基礎素材型製品から電子材料の素材や光学フィルムなど、性能や機能性に優れた高付加価値型製品の製造に転換が図られ、さらに背後圏に自動車・工作機械をはじめとするものづくり産業、そして今後成長が見込まれる航空機産業、半導体産業が集積していることから、中部圏だけでなく、日本の産業・経済を牽引する「国際産業ハブ港」を目指して取り組んでいます。



## 中部圏を代表する エネルギー供給基地

四日市港の輸入貨物量の約90%は、原油や液化天然ガス、石炭などのエネルギー資源が占めています。

原油は主に、海上(沖合約6km)のシーバース(石油受け入れ基地)から海底パイプラインを通じて、臨海部の石油化学コンビナートに供給されています。

また、液化天然ガスは、都市ガスや火力発電所の燃料として使用されており、現在、天然ガスの安定供給のため、知多半島と結ぶ伊勢湾横断ガスパイプラインや、滋賀県と結ぶ三重・滋賀天然ガスパイプライン(三重・滋賀ライン)の敷設が進められています。

霞ヶ浦地区の南埠頭には、伊勢湾内で唯一の石炭の中継備蓄基地「中部コールセンター」があります。2011(平成23)年にここで取り扱われた石炭は約225万トンで、そのうちの約100万トンが石炭火力としては国内最大の火力発電所である中部電力碧南火力発電所へ供給されるほか、コンビナート企業などの自家発電にも供給されています。

石炭は、リスク分散の観点でオーストラリア、インドネシア、ロシア、カナダなど世界各国から輸入しています。

このように、四日市港は国内のエネルギー供給に関して、重要な役割を果たしています。



貯炭能力約100万トンの中部コールセンター

## 霞ヶ浦地区の コンテナターミナル

霞ヶ浦地区の北埠頭には水深14m、南埠頭には13.2mのコンテナ専用岸壁があり、1時間に30~40個のコンテナを取り扱うことができる5基の巨大な「ガントリークレーン」で、コンテナを1つずつ持ち上げ、揚げ積みしていきます。

特に、北埠頭のターミナルには、安全で効率よくコンテナを取り扱うことができる、RTG(タイヤ式門型クレーン)が設置されています。

2012(平成24)年の外貿コンテナ取扱個数は、18万TEU(\*)を超え、過去最高を記録しました。

\*TEU=20フィート(約6m)コンテナ換算のコンテナの個数を示す単位。1TEUは20フィートコンテナ1個分。

## 四日市(千歳)地区の ばら積み貨物基地

四日市(千歳)地区には、第1、2、3埠頭と四日市港発祥の地の旧港があります。第1埠頭では化学薬品や合成樹脂などを主に取り扱っていて、第2埠頭は国内向け自動車を取り扱うとともに、穀物専用サイロがあり、背後地の穀物供給基地としての役割を果たしています。

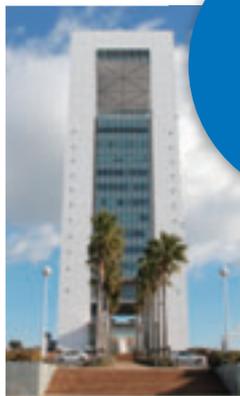
また、第3埠頭は、穀物や鉱石などの粉粒状のまま包装せずに運ばれる「バルク貨物」などを取り扱っています。



バルク貨物(穀物)

# 四日市港を支える組織

## 四日市港 管理組合



四日市港管理組合が  
入るポートビル

## 四日市港管理組合ができるまで

四日市港は、四日市港管理組合が設立されるまでは三重県が港湾管理者として管理していましたが、1961(昭和36)年、市と県は、鉄鋼関連企業の誘致を前提とした霞ヶ浦地先の埋め立て事業と四日市港の共同管理への移行について合意しました。

1963(昭和38)年には、鉄鋼関連企業が進出を

断念しましたが、市は「四日市港の将来のためには霞ヶ浦地先を埋め立てて企業誘致が必要」と考え、県との調整を図りました。

その結果、1965(昭和40)年、当時の運輸省港湾局長の調停案に基づき、県市共同の霞ヶ浦地先埋め立て事業と、四日市港の県市共同管理が実ることとなり、翌年、県市を組織団体とする特別地方公共団体として四日市港管理組合が設立されました。

この埋め立てには、公害の経験も踏まえて、住居地域との距離を確保する出島方式が採用されました。

## 四日市港管理組合の仕事

現在、四日市港管理組合は、一部事務組合として、港湾施設の使用料や組織団体の負担金(負担割合県:市=5:4)などを財源とし、県市の派遣職員と管理組合の採用職員で運営されています。また、港湾計画の作成、港湾区域および港湾施設の維持管理・建設・改良にかかる港湾工事などの港湾管理者としての業務を行うとともに、四日市港の利用を促進するため、航路誘致や親しまれる港づくりなどにも取り組んでいます。

さらに、地震・台風などの災害発生に備えて、緊急物資や人員を海上輸送するための耐震強化岸壁を

整備して港湾機能を確保するとともに、住民の安全確保のため、防潮堤や防潮扉、水門といった海岸保全施設の整備や維持管理を行っています。

現在は、市街地に近い四日市(千歳)地区で耐震強化岸壁の整備や、背後に住宅が密集している富田港地区で護岸補強工事を行っています。



四日市地区第3埠頭の  
耐震強化岸壁工事

## 第四管区 海上保安本部 四日市海上保安部

四日市海上保安部は、四日市港が県内で一番大きい物流港であることから、航路管制室が置かれているのが大きな特徴です。

海上保安部は、地域ごとに特徴があり、尾鷲海上保安部は外洋に対応できるような船が配備されたり、鳥羽海上保安部には潜水士が配属されたりしています。

海上保安部では、災害などにも速やかに対応できるよう、週休日と船の整備日以外は毎日訓練をしています。また、海への油やごみなどの不法投棄の取り締まりなどにも力を入れています。

全国には121隻の巡視船があり、四日市港には、「しよりゅう」という全国で5隻しかない巡視船(消防船)を含め、4隻の巡視船艇が配備されています。四日市港に消防船が配備されているのは、コンビナートがあるためです。「しよりゅう」は、建造されて42年経過しているため、今春引退が予定されており、3月末には四日市海上保安部の新たな顔となる最新鋭の消防機能を強化した巡視艇「あおたき」が配備されます。



消防機能強化型巡視艇  
(海上保安庁提供)

## 中部地方 整備局

四日市港湾事務所

コンテナターミナルのある霞ヶ浦地区では、増加するコンテナ貨物や船舶の大型化に対応するため、岸壁などの整備を行うとともに、コンテナ船の安全航行や、港内における船舶の接岸、荷役、停泊を安全に行うために、防波堤の整備を進めています。

また、霞ヶ浦地区で増加する港湾関連交通を円滑に伊勢湾岸自動車道みえ川越ICに連絡することで輸送コストの削減や港湾貨物の定時性・即時性を図る臨港道路（霞4号幹線）の整備を進めています。この道路は、出島である霞ヶ浦地区の大規模災害発生時におけるリダンダンシー（代替機能）の役割も

担います。

東日本大震災発生時、被災地の港内にゴミなどが多く浮遊し、緊急支援物資を積んだ船が数日間接岸することができなかった教訓を踏まえ、現在、関係行政機関と海上の速やかな安全確保と緊急物資輸送ルートを早期回復する方法の検討を始めています。



建設が進む霞4号幹線

## 名古屋税関

四日市税関支署

2011（平成23）年の四日市港の貿易額は28,366億円と、名古屋税関内で名古屋港に次ぐ貿易額を誇る四日市港では、税関が貿易上の大きな役割を果たしています。



貨物の検査

税関では、課税・非課税を決めるための通関検査を実施しています。輸出

入申告書に基づき貨物の審査を行うとともに、課税か非課税か、またきちんと納税されているかなどを判断しています。

また、麻薬などの禁制品の検査などを行い、法律違反がないかを調べています。

税関やその他の関係行政機関に対する手続きなどは、「通関情報処理システム」を用いてオンラインで処理しています。これにより、港湾における物流情報などを総合的に管理することができるため、港を利用する事業者の利便性が高まりました。

## 名古屋 検疫所

四日市検疫所  
支所

検疫所では、日本に常在しない新型インフルエンザなどの感染症が国内へ入ってこないように外航船の検疫や、ネズミや蚊などの病原体を運ぶ生き物の国内への侵入・まん延防止のための調査を行い、必要に応じて駆除・消毒などを実施しています。検疫時に新型インフルエンザなどの検疫感染症の疑い患者が発見された場合には、隔離・停留などの対応を行えるよう法的整備が行われています。



残留農薬検査のための試験品採取

また、輸入食品の安全性を確保するため、モニタリング検査などの監視業務や、輸入相談なども行っています。

## 名古屋 植物防疫所

四日市出張所

植物防疫所では、日本の植物に被害をもたらす海外からの病害虫の侵入を防ぐため、輸入される植物に病害虫が付着していないかの検査を行っています。例えば、穀物を積載した船の場合は船倉内において、コンテナ船の場合はコンテナ内の植物を抽出して検査を行っています。この



ふるいをを用いた豆類の輸入検査

他、日本から海外へ持ち出す農産物について相手国が要求する条件を満たしているかの検査を行っています。

# みんなの力で



展望展示室からの眺め

## ① うみてらす14(フォーティーン)

霞ヶ浦地区にあるポートビル(高さ100m)の14階にあります。快適な室内空間で、コンビニートなどを一望できるベストポジションです。

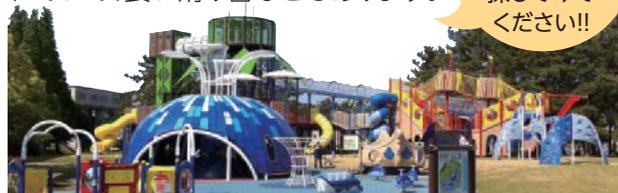


- 開館時間/9:30~17:00(土曜日、7~11月の金曜日は21:00まで)※入場は閉館の30分前まで
- 休館日/水曜日(通年)、月曜日(4~6月、12~3月)、12月29日~1月3日 ※祝日の場合は翌日
- 入場料/一般300円、小・中学生150円、小学生未満無料

## ② 霞★ゆめくじら

2012(平成24)年3月に霞ヶ浦緑地内にできた公園。4つのエリアに分かれていて、長い滑り台などもあります。

遊具の中に10頭のクジラが隠れています。探してみてください!!



## 豪華客船がやってきた!!

四日市港客船誘致協議会では、市民に親しまれる港づくりや観光振興のため、四日市港に客船の誘致活動が行われています。四日市港の岸壁は水深が最大14mあり、三重県の港の中で一番深いので、にっぽん丸や飛鳥IIのような大型船も入港できます。



にっぽん丸(2012.12.16撮影)



## ③ 潮吹き防波堤



旧港の修築には、桑名城(現在の桑名市の九華公園)の石垣の一部を使ったと言われています。

# 親しまれる四日市港づくり

四日市(千歳)地区には、末広橋梁や潮吹き防波堤などの近代化産業遺産や、千歳運河沿い倉庫群、プロムナード(遊歩道)、壁画などさまざまな資源があります。

四日市(千歳)地区の資源を周遊するまち歩きや自転車による周遊コースの設定、千歳運河沿いの緑地(防護柵、ベンチの配置など)の整備、来訪者用駐車場の確保、そしてJR四日市駅から旧港に向けて港の施設や資源の紹介看板の設置を行うこととしています。

### 旧港まち歩きマップ作成

ワークショップでは、「親しまれる四日市港づくりのための100のアイデア集」や自転車や徒歩でのまち歩きモデルコースを掲載した「四日市旧港まち歩きマップ」を作成しました。



# 港の魅力アップ



4 末広橋梁

通常時の末広橋梁



列車通過時の末広橋梁

1日最大  
5往復して  
います

1894(明治27)年の港改修時に、オランダ人技師ヨハネス・デレーケの提案で作られたと言われている、波の力を弱めるために五角形の水抜き穴を設けているユニークな構造の防波堤です。1996(平成8)年、港湾施設として全国で初めて国の重要文化財に指定されました。



稲葉翁記念公園には、潮吹き防波堤の仕組みを体験できるレプリカがあります。ボタンを押すと、波が起きて、防波堤の穴から潮を噴き上げ、波消しをする仕組みを確認できます。

1931(昭和6)年に竣工した千歳運河に架かる日本で唯一の現役鉄道可動橋で、国の重要文化財に指定されています。運河を通る船の航行を妨げないように、橋桁の先端のワイヤーロープを巻き上げ、跳ね上げる跳開式の構造です。千歳運河には、他にも臨港橋という道路用の可動橋があります。

## 工場夜景クルーズ

四日市市と四日市港管理組合は、港湾の夜景や荷役作業、四日市(千歳)地区に遺る産業遺産などの港湾景観を産業観光資源として活用して、市民の皆さんに親しまれる港づくりを進めています。

コンビナート企業のOBIによるコンビナートがよくわかるガイドや、ビューポイントでは撮影可能なように船を止めるサービスもあります。

[四日市観光協会ホームページ]  
<http://kanko-yokkaichi.com>



## 港の魅力再発見のワークショップ開催

四日市(千歳)地区にあるさまざまな資源を生かしたみなたまちづくりを進めるため、2009(平成21)年度から3年間、四日市港管理組合と三重大学は、共同で「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ」を開催しました。また、2010(平成22)年からは、ワークショップで出たアイデアを取り入れ、「秋のみなとフェスタ」が開催されています。



### 編集後記

暮れも押し詰まった時期にもかかわらず、関係機関の皆さんには時間を割いて取材に応じていただき、本当に感謝しています。今回、四日市港の見所をたくさん取材しました。一つ一つを近くまで見に行くのもいいですが、なかでも360度パノラマで景色を楽しめるポートビル14階の展望展示室がイチオシです。ぜひお出かけください。(政策推進課 藤岡、広報広聴課 堀田)